

1 学年 1 組 社会科学学習指導案

令和7年10月7日(火) 第5校時
場 所 1年1組 教室
学習者 37名
授業者 教諭 橋本 一秋

1 単元名 地理的分野 B 世界の様々な地域

2 単元について

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

本単元は、学習指導要領の内容Bの「(2) 世界の諸地域」に該当している。ここでは、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、地球的課題は地域的特色の影響を受けて現れ方が異なること、人々の生活を基に各州の地域的特色を大観し理解することや、また、地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できるようにすること等を主なねらいとしている。

②単元の価値

本単元を指導するにあたっては「取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。」(『学習指導要領解説 社会科編』47ページ)に重きを置いて、資質・能力の育成を目指す。具体的には、取り扱う地球的課題は州ごとに異なっているとはいえ、時間的にも空間的にも結び付いているという社会認識を育むということである。この認識を土台に、地球的課題を日本とも結び付けて、地球的課題を解決し持続可能な社会における個人としての参画の意義を実感させていきたい。こうして生徒のSDGs(持続可能な開発目標)の担い手としての自覚を強めることができることこそ、本単元の価値である。なお、時間的に結び付いているとは、例えば、アフリカ州の貧困という課題を経済的に克服しようとする、南アメリカ州のような開発と自然保全のバランスに腐心せざるを得ず、また、経済発展を実現したとしても、その先には北アメリカ州が直面している大量生産・大量消費と大量廃棄の課題が現れてしまう。つまり、三つの州の課題は時系列で並べることができるということである。空間的に結び付いているとは、例えば、アフリカ州のコンゴ民主共和国は世界的なレアメタルの採掘地であるが、これを加工する技術が未発達のため、欧米の企業に安く買いたたかれ、貧困から抜け出せないという現実がある。つまり、市場のグローバル化が進む現代社会において、アフリカ州の貧困(または南アメリカ州の環境破壊)によって、北アメリカ州(を始めとする先進工業国)の豊かな生活が成り立っているということである。

③単元の系統性

学習方法と学習内容の両面から述べる。

学習方法については、小学校と中学校で使用している教科書で、問題解決過程をたどりながら知識・技能を系統的に習得(あるいは思考力・判断力・表現力を育成)できる学習方法が提案されていることを生かしていく。本時の授業展開においても「課題把握」「課題追究」「課題解決」と構成し、後述するような深い学びにいたる自由進度学習を目指す。

学習内容については、小学校の第5学年の内容(1)イ(2)「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。」において、日本国内の「低い(高い)土地の暮ら

し」や「あたたかい（寒い）土地の暮らし」などの単元を通して、自然環境を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の人々の生活と関連付けながら育成された資質・能力を生かしたい。また、1学期で既習の大単元の内容B(1)イ(ア)、「世界各地の人々の生活と環境」では、これに加えて、地域の特色の一面が地球的課題として顕在化していることを示唆する内容であるため、本単元においても生徒がその学びを意図的に活用できるように指導する。そして、高等学校で履修する科目である地理総合の内容B(2)「地球的課題と国際協力」のイ(ア)にある「世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。」と円滑に接続できるよう、公民としての資質・能力の基礎の育成に努めたい。

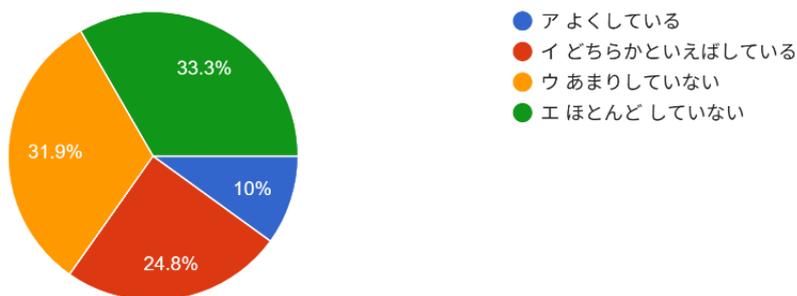
(2) 生徒観

生徒の社会科学習の実態を把握するため、授業を担当している1学年（6学級）を対象として、4月にアンケートを実施した。（回答数 213）

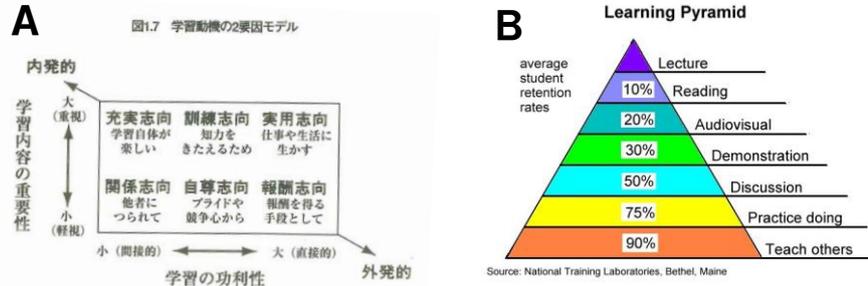
質問項目1 社会科学を学ぶ理由として、あなたの考えに近いものを下から選び、順位をつけてください。	肯定的回答の順位 ※カッコ内はポイント
ア 社会科学を学ぶことそのもの楽しいから学ぶ。	4位 (740)
イ 社会科学の知力がきたえられるから学ぶ。	1位 (551)
ウ 日常生活や将来の仕事に生きてくるから学ぶ。	2位 (591)
エ 社会科学を学ぶ中で、いろいろな人と関わることができるから学ぶ。	5位 (839)
オ 自分に満足感が生まれたり、友だちに認められたりするから学ぶ。	6位 (959)
カ 社会科学の成績が上がるから学ぶ。	3位 (706)

	質問項目2 これまでの社会科学の授業で多かった学習活動を、ア～キから選び、順位をつけてください。	質問項目3 これまでの社会科学の授業で楽しかった学習活動を、ア～キから選び、順位をつけてください。	質問項目4 社会科学の学力を伸ばすために、あなたが効果的だと考える学習活動を、ア～キから選び、順位をつけてください。
ア 先生の説明を聞く。	2位 (638)	6位 (991)	4位 (838)
イ 教科書や参考書を読む。	1位 (594)	4位 (830)	1位 (654)
ウ 社会科学に関する動画を視聴する。	3位 (698)	1位 (483)	3位 (805)
エ 先生に問題解決や調査の手本をみせてもらう。	7位 (1226)	7位 (1130)	7位 (1111)
オ 相談や議論をする。	5位 (947)	3位 (764)	6位 (894)
カ 自分で問題解決や調査に取り組む。	4位 (729)	2位 (704)	2位 (683)
キ 学習した内容を他の人に説明をする。	6位 (1020)	5位 (966)	4位 (838)

質問項目5 学校の宿題以外で、社会科学の授業の予習をしていますか。一つを選んでください。



【質問項目と集計方法について】質問項目1の選択肢は、**下図A**の市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる』の「学習動機の2要因モデル」から作成。質問項目2～4の選択肢は、**下図B**のアメリカ国立訓練研究所が発表したとされる一般的なラーニングピラミッドの7つの学習活動から着想して作成している。集計方法については、各生徒がつけた順位（1位～7位）をそのままポイント（1ポイント～7ポイント）として集計をしている。合計のポイントが低いものほど、生徒の支持が高いことを意味している。



質問項目1（学習動機）については、1位に「イ 社会科の知力がきたえられるから学ぶ。」と2位に「ウ 日常生活や将来の仕事に生きてくるから学ぶ。」が入っている。ここからは、生徒が社会科の授業によって育成される資質・能力の意義の一つ「社会に開かれた教育課程」を見出している様子がみえ、実用的な授業を望んでいることがわかる。

質問項目2（小学校で多かった学習活動）については、「イ 教科書や参考書を読む。」が1位、「ア 先生の説明を聞く。」が2位と、小学校での社会科の授業がインプット中心であった様子がみえる。一方で4位には「カ 自分で問題解決や調査に取り組む。」があり、ポイントにも大きな差はないことから、アウトプット中心の授業にもある程度取り組んでいたことがわかる。質問項目4（学力を伸ばす学習活動）の2位に「カ 自分で問題解決や調査に取り組む。」が入っているのは、小学校の時に取り組んだアウトプット中心の授業が効果的だったことが示唆されている。この「カ 自分で問題解決や調査に取り組む。」は、質問項目3（楽しかった学習活動）においても2位であることから、学力向上面だけではなく、意欲の面でも、アウトプット中心の授業に対する生徒のレディネスは十分に高まっているといえる。質問項目5（社会科の予習）については、予習に取り組んでいる生徒は3人にひとりと、家庭学習においては物足りなさを感じている。

実用的な授業を望んでいることと、アウトプット中心の授業を受け入れる準備ができていないこと、一方で予習への取り組みは十分ではないこと、これを本学年生徒の社会科学学習に関する実態とする。

(3) 指導観

以上の教材観及び生徒観と、単元の学習目標、後述する本校の研修テーマとを踏まえて、本単元では2つの指導の工夫をする。

① 「生徒が学び取る授業」の一つとしての自由進度学習の試み

中学校入学後のこれまでの授業では、授業者がティーチャーになる講義等のインプット中心の「授業者に教わる授業」から、授業者がファシリテーターになって生徒が学習課題に対して調べたり議論をしたりまとめたりするなどのアウトプットが中心の「生徒が学び取る授業」への転換を進めている。本単元ではその学習活動の一つとしての自由進度学習を試みる。

自由進度学習とは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す学習スタイルであるが、そのフレームの広さや教師の介入の度合い等、その実践の具体的な姿は多種多様である。一方でどのような自由進度学習であれ、生徒に求められる学習者としての姿は共通しているのではないかと。それは、単元の見通しをもって自ら問いを設定し、見方・考え方を意図的に働かせながら、自己調整と粘り強さを発揮して自ら学習を駆動して課題解決に向かう、「深い学び」のできる自律した学習者としての姿だろう。そのような考えのもと、3年間を見通した段階的な学び方の指導と、適切なフレームの設定と授業者の介入の度合いについて、生徒と共にトライエンドエラーを繰り返しながら、社会科における自由進度学習の効果的な指導・支援を模索している。その中で、本単元で自由進度学習を試みる理由は以下の3つである。

1つ目の理由は、『中学校学習指導要領解説 総則編』39ページにある「学びに向かう力、人間性等」

（「生徒一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要」）の涵養のためには、社会科の授業についての授業観を「授業者に教わる授業」から「生徒が学び取る授業」へと授業者自身が転換し、自由進度学習の実現に向かって授業改善を進めていく必要があるとの実感である。埼玉県学力学習状況調査において、非認知能力と学力との相関が明らかになっていることも、この実感を強めている。

2つ目の理由は、自由進度学習の学習方法と学習内容の両面で学習活動を支援する一人一台のタブレットPC（Chromebook）と教育アプリ（ロイロノート・スクールやQubena、生成AI）が活用できることである。これらのICT機器の活用によって、これまでの「生徒が学び取る授業」よりも大幅に時間を短縮して学習活動を進めることができるようになっている。またICT機器の普及によって、後述するように、授業と家庭学習とが有機的に結び付いた指導・支援（例えば反転学習）を実現できるようになっている。

3つ目の理由は、1学年2学期という時期の適切さである。アンケート結果からも自由進度学習のレディネスは高まっている。また入学後半年が経過して、授業者による学年生徒の個性の把握によって、個別の支援（指導の個別化）ができるようになっている。さらには、本単元の地理的分野の学習内容は、生徒が生活体験と結び付けやすいため、授業者による講義を最小限にしても、歴史的分野や公民的分野と比較して「深い学び」にいたりやすいことを実感している。そして、6つの州すべてを原則として同じ単元計画（学習問題設定→自然環境→民族・文化→産業→地球的課題→単元のまとめ）で進めることで、生徒が学習活動の先を見通すことができるようになり、生徒自身が見方・考え方を意図的に働かせやすく、学習の駆動が比較的容易となるためである

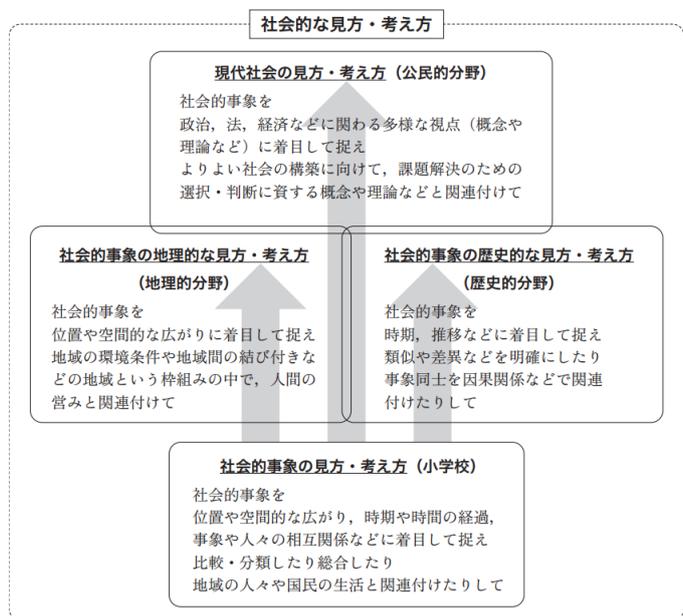
②見方・考え方を内包した問いを立て「深い学び」にいたる

自由進度学習の実施に当たっては、適切なフレームの設定ができなかったり、授業者の介入が不十分であったりして自習との区別が不明瞭となり、社会科を学ぶ本質的な意義に迫る「深い学び」にいたらないのではないかという懸念がある。生徒が期待する実用的な授業のためには、そこでの学びは「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」につながるものでなくてはならない。そしてこれらは「深い学び」によって習得・育成・涵養される。自由進度学習に取り組む生徒の「学び方」が未熟では、学習が表層的なまとめに終始してしまう。「深い学び」にいたる授業のかぎとして、社会的な見方・考え方を働かせることがある。

「社会的な見方・考え方」とは、「社会科、地理歴史科、公民科としての本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体に関わるものであると考えられる。」（中学校学習指導要領解説 社会編7ページ）である。つまり、「社会的な見方・考え方」が働くことで「深い学び」への方向性が定まる。

自由進度学習において「深い学び」にいたる方策として、単元を貫く学習問題や一単位時間ごと

『小学校学習指導要領解説 社会編』19ページ



の学習課題に「社会的な見方・考え方」を内包させ、問題解決過程においても「見方・考え方」が自動的に働くような学習活動を仕掛けることが必要である。なお「社会的な見方・考え方」を内包させた問いについては、教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループの資料を参考にしている。https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/071/siryo/1371282.htm

また、本単元においては、2015年9月に国際連合で193か国の全加盟国が賛同した持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）の実現に向けて、学習した内容をどのように生かしていくべきかという学習活動を軸とした「実用的な授業」をめざしている。1年次の段階では、主に授業者が設定する問いを通して自動的に「社会的な見方・考え方」が働くように仕掛けていくが、3年間を通して生徒が意識して働かせられるように指導していく。そして自由進度学習の中で「社会的な事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付け」た問いを、一人ひとりの生徒が意図的に設定し、学習活動の中でこれを道具的に働かせることで、「深い学び」にいたることを目指していきたい。

3 「校内研修テーマ」及び「学力向上プラン」との関わり

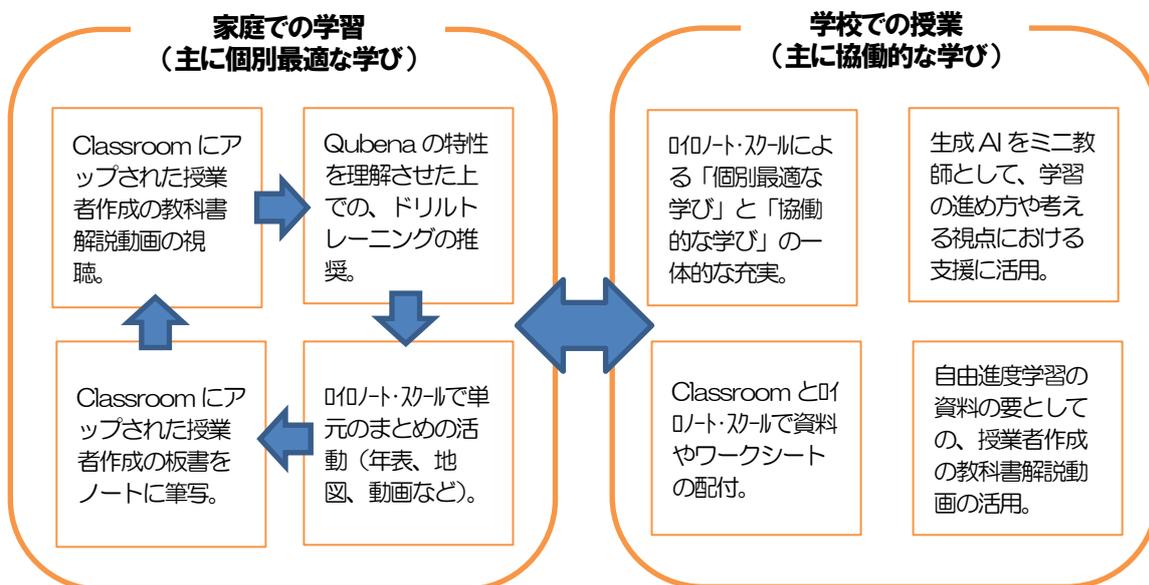
研修テーマ：主体的に学習に取り組む生徒の育成～ICT機器の活用を通して～

本校では、生徒一人一台のChromebookを用いて、令和の日本型学校教育の実現「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱に「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に取り組んでいる。1学年の社会科においては、ICT機器を効果的に活用して「深い学び」にいたる自由進度学習を段階的に試みている。段階的とは、自由進度学習のフレームを少しずつ広くしていくことであり、授業者の介入の度合いを下げていくことである。具体的には、授業者が行っている授業の準備（教材研究、単元計画の作成、問いの設定等）を、少しずつ生徒に委ねていくことである。同時に、生徒の学び方の選択肢を増やしていくことでもある。

(1) 「校内研修テーマ」との関わり

① 令和の日本型学校教育の実現

一人一台のChromebookを用いて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱に「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に取り組んでいる。特にGoogle Classroom、Qubena、ロイロノート・スクール、生成AIの4つのツールの効果的な活用方法について研究している。連絡や資料の配付等で授業者と生徒をつなぐGoogle Classroom、基礎的・基本的情報の記憶の定着に有用なQubena、授業内でのまとめ・提出・共有・交換などの学習活動の効率を飛躍的に高めるロイロノート・スクール、問題解決型の学習の様々な視点を提供しながら生徒一人一人の実態に寄り添った助言ができる生成AIなど、いずれも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に大きな力となることを実感している。第1学年社会科では、ICT機器を活用して以下のような学習の流れを構想し、実践している。



② 自律的に学ぶことのできる生徒の育成

家庭での学習においては、ICT機器の活用によって、一斉講義式の授業を再現できるような教材（授業者が作成している教科書解説動画と板書）を用意している。授業者としては、予習でICT機器を活用した「授業者に教わる授業」を受講し、授業で自由進度学習、そして復習でQubena等の問題と単元のまとめを作成するという、いわゆる反転学習を「生徒が学び取る授業」のなかに位置付け、これを生徒に提案している。この提案を土台として、自身の学びの特性に応じた学習スタイルや、部活動や課外活動、社会科の学力の現状と他教科の学習とのバランスを考慮しながら、生徒一人ひとりが学校と家庭での社会科の学習の進め方を選択・判断できる自律的な学習者として成長することを目指している。

(2) 「学力向上プラン」との関わり

本校の社会科部会では「基礎的基本的な知識及び資料活用の技能の習得」「資料に基づき思考・判断し、根拠を明らかにしながら表現する力の育成」「粘り強さを発揮し、学習調整をしながら主体的に学習に取り組む生徒の育成」を目指している。そのためにICT機器を活用した自由進度学習を段階的に取り入れている。「課題把握」「課題追究」「課題解決」といういわゆる探究的な学習の過程をたどりながらも、知識を系統的に習得する系統学習との両立を図ることが、「深い学び」にいたる自由進度学習において重要である。自由進度学習では、知識を系統的に習得することに不安を感じ「授業者に教わる授業」を求めている生徒がいることは、これまでの経験からも実感している。この不安を払しょくするためにも、自由進度学習は学び方を学ぶという過程を重視しながら段階的に取り入れ、一時間一時間の授業を洗練（問いを魅力的にすること、自由進度学習のよさを認知心理学的に実感させること、ICT機器を効果的に活用すること等）させるだけでなく、あえて「授業者に教わる授業」の場面も計画的に取り入れることも必要になる。

4 単元の学習目標

（第2章 世界の諸地域 第3節 アフリカ州 第4節 北アメリカ州 第5節 南アメリカ州）

- ・ アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、これらの州の地域的特色を大観し、相違点を理解できるようにする。（知識及び技能）
- ・ 地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解できるようにする。（知識及び技能）
- ・ アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域間の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ アフリカ州の歴史的経緯、北アメリカ州の強大な産業の発展、南アメリカ州の開発に伴う環境問題とそれぞれの結び付きに着目しながら、SDGs（持続可能な開発目標）と関連付けながら主体的に追究できるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、これらの州の地域的特色を大観し、その影響を受けて現れる地球的課題の相違点や、時間的・空間的な結び付きを理解している。	アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域間の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	アフリカ州の歴史的経緯、北アメリカ州の強大な産業の発展、南アメリカ州の開発に伴う環境問題とそれぞれの結び付きに着目しながら、SDGs（持続可能な開発目標）と関連付けながら主体的に追究しようとしている。

6 指導と評価計画 (全 18 時間扱い)

時間	目標 ～「見方・考え方」を内包した生徒に示す学習課題～	主な学習活動	●学習改善につなげる評価【観点】 ○評定に用いる評価【観点】 →評価方法
1	<p>アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州の地球的課題の考察に向けて、学習活動に見通しをもって取り組もうとする。</p> <p>～どのような学習問題を設定すると、アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州の学びを、持続可能な社会の実現に結び付けることができるのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料から三つの州の地球的課題を概観し、それらの課題同士の関連、私たちの生活とSDGsとの結びつきについて捉える。 地球的課題は時間的にも空間的にも結び付いており、だからこそSDGsの達成にはトレードオフではなくシナジーを重視すべきことを踏まえた学習問題を設定する。 	<p>○アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州の地球的課題の学習に見通しをもって取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>→観察、振り返りカードの振り返りの内容、班ごとに作成した学習問題</p>
<p>【1年1組の生徒が設定した単元を貫く学習問題】</p> <p>SDGsにつながっている、3つの州の共通の課題とはどのようなものだろうか。</p>			
2	<p>アフリカ州の自然環境や歴史・文化、産業等の特徴を、主題図作成を通して理解できる。</p> <p>～アフリカ州は地形や気候、歴史や産業について、どのような特徴がある地域なのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主題図作成を通して、アフリカ州の自然環境や歴史・文化等の特徴を把握する。 主題図作成は、地形・気候・歴史・産業の四種類として、グループ内で分担し進める。 	<p>○アフリカ州の自然環境や歴史・文化等の特徴を、主題図の作成を通して理解している。【知識・技能】</p> <p>→主題図の内容</p>
3	<p>アフリカ州の特徴が生じた要因を、自然環境や歴史・産業等を関連付けながら考察できる。</p> <p>～アフリカ州の地形や気候、歴史や産業の特徴は、なぜ生じたのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識構成型ジグソー法によって追究する。 地形や気候、歴史や産業の特徴について、前時で作成した主題図を使ってグループ内で共有する。 これらの特徴を関連付けて、生じた要因を考察する。 	<p>●アフリカ州の特徴が生じた要因を、自然環境や歴史・産業等を関連付けながら考察している。【思考・判断・表現】</p> <p>→観察、ワークシートの内容、振り返りカードのまとめの内容</p>
4	<p>南アメリカ州の自然環境や産業等の特徴を、主題図作成を通して理解できる。</p> <p>～南アメリカ州は地形や気候、産業について、どのような特徴がある地域なのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主題図作成を通して、南アメリカ州の自然環境や産業等の特徴を把握する。 主題図作成は、地形・気候・農業・鉱工業の四種類として、グループ内で分担し進める。 	<p>○南アメリカ州の自然環境や産業等の特徴を、主題図の作成を通して理解している。【知識・技能】</p> <p>→主題図の内容</p>
5	<p>南アメリカ州の特徴が生じた要因を、自然環境と産業等を関連付けながら考察できる。</p> <p>～南アメリカ州の地形や気候、農業や鉱工業の特徴は、なぜ生じたのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識構成型ジグソー法によって追究する。 地形や気候、農業や鉱工業の特徴について、前時で作成した主題図を使ってグループ内で共有する。 これらの特徴を関連付けて、生じた要因を考察する。 	<p>●南アメリカ州の特徴が生じた要因を、自然環境や産業等を関連付けながら考察している。【思考・判断・表現】</p> <p>→観察、ワークシートの内容、振り返りカードのまとめの内容</p>

6	<p>先住民と移民の文化が融合する南アメリカ州の人々の生活について、さまざまな資料を活用して理解できる。</p> <p>～南アメリカ州の国々の文化や民族の特色は、どのような歴史を経て成り立っているのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「南アメリカの主な言語と人種・民族構成」を活用する。 ・知識構成型ジグソー法によって追究する。 	<p>●南アメリカ州の人々の生活について「南アメリカの主な言語と人種・民族構成」を中心に読み取り、理解している。【知識・技能】</p> <p>→主題図の内容</p>
7	<p>北アメリカ州の自然環境、民族、産業の特徴を、主題図作成を通して理解できる。</p> <p>～北アメリカ州は、自然環境(地形・気候)、移民の歴史、農業や工業について、どのような特徴がある地域なのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図作成を通して、自然環境、民族、産業の特徴を把握する。 ・主題図作成は、自然環境(地形・気候)、移民の歴史、農業、工業の四種類として、グループ内で分担して進める。 	<p>●北アメリカ州の自然環境、民族、産業の特徴を、主題図作成を通して理解している。【知識・技能】</p> <p>→主題図の内容</p>
8			
9	<p>北アメリカ州の特徴が生じた要因を、自然環境、民族、産業等に関連付けながら考察できる。</p> <p>～北アメリカ州の自然環境(地形・気候)、移民の歴史、農業や工業の特徴は、なぜ生じたのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法によって追究する。 ・自然環境(地形・気候)、移民の歴史、農業や工業の特徴について、前時で作成した主題図を使ってグループ内で共有する。 ・これらの特徴を関連付けて、生じた要因を考察する。 	<p>○北アメリカ州の特徴が生じた要因を、自然環境、民族、産業等に関連付けながら考察している。【思考・判断・表現】</p> <p>→観察、ワークシートの内容、振り返りカードのまとめの内容</p>
10	<p>三つの州の地理的な特徴を比較して、三つの州の地域間の結び付きを理解する。</p> <p>～三つの州は、どのように結び付いているのだろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法によって追究する。 ・マトリクス表に三つの州の特徴をまとめる。 ・これらの特徴を関連付けて、人とモノの結び付き及び、その背景になっている歴史的な結び付きも考察する。 	<p>○三つの州の地理的な特徴を比較して、三つの州の地域間の結び付きを理解する。【知識・技能】</p> <p>→ワークシートの内容、振り返りカードのまとめの内容</p>
11 本時	<p>3つの州の地球的課題とそれぞれの結び付きに着目しながら、SDGs(持続可能な開発目標)と関連付けて、問いの設定を通して主体的に追究しようとする。</p> <p>～どのような問いを立てると、各州の地球的課題の全体を見通し、意欲的に学べるだろうか。また、その問いの解決のために、どのような情報が必要だろうか～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習として進める。 ・社会科班ごとに、アフリカ州、南アメリカ州、北アメリカ州の地球的課題を分担する。 ・その地球的課題を追究する上での問い(中間い)を設定する。 ・その問いを解決するために必要な情報を、問いの構文で3つ程度設定する(小問い)。 ・設定した小問いが適切かどうか、社会科班で検討をする。 	<p>○3つの州の地球的課題とそれぞれの結び付きに着目しながら、SDGs(持続可能な開発目標)と関連付けて、問いの設定を通して主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>→ワークシートに設定した問いと振り返りの内容</p>

1 2	SDGsに取り組む個人として、各州の地域的特色と地球的課題を関連付けながら、中間いの解決のために必要として設定した3つの情報のうちの1つ目を追究しようとする。 ～（それぞれの情報について設定した小問い）～	<ul style="list-style-type: none"> ・中間い・小問いの解決に最適な座席と資料を選び、情報収集と整理分析を進める。 ・情報収集と整理分析は、各州の地勢図に表現していく。 ・設定した中間い・小問いは必要に応じて見直す。 ・授業の終わりに、社会科班で本日の学びを共有し、単元をつらぬく学習問題の答えについて意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsに取り組む個人として、各州の地域的特色と地球的課題を関連付けながら、中間いの解決のために必要な情報を追究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 →ワークシートの内容と振り返りの内容
1 3	SDGsに取り組む個人として、各州の地域的特色と地球的課題を関連付けながら、中間いの解決のために必要として設定した3つの情報のうちの2つ目を追究しようとする。 ～（それぞれの情報について設定した小問い）～	<ul style="list-style-type: none"> ・中間い・小問いの解決に最適な座席と資料を選び、情報収集と整理分析を進める。 ・情報収集と整理分析は、各州の地勢図に表現していく。 ・設定した中間い・小問いは必要に応じて見直す。 ・授業の終わりに、社会科班で本日の学びを共有し、単元をつらぬく学習問題の答えについて意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsに取り組む個人として、各州の地域的特色と地球的課題を関連付けながら、中間いの解決のために必要な情報を追究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 →ワークシートの内容と振り返りの内容
1 4	SDGsに取り組む個人として、各州の地域的特色と地球的課題を関連付けながら、中間いの解決のために必要として設定した3つの情報のうちの3つ目を追究しようとする。 ～（それぞれの情報について設定した小問い）～	<ul style="list-style-type: none"> ・中間い・小問いの解決に最適な座席と資料を選び、情報収集と整理分析を進める。 ・情報収集と整理分析は、各州の地勢図に表現していく。 ・設定した中間い・小問いは必要に応じて見直す。 ・授業の終わりに、社会科班で本日の学びを共有し、単元をつらぬく学習問題の答えについて意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsに取り組む個人として、各州の地域的特色と地球的課題を関連付けながら、中間いの解決のために必要な情報を追究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 →ワークシートの内容と振り返りの内容
1 5 ・ 1 6	アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、これらの州の地域的特色を大観し、その影響を受けて現れる地球的課題の相違点や、時間的・空間的な結び付きを理解する。 ～SDGsにつながっている、3つの州の共通の課題とはどのようなものだろうか～	<ul style="list-style-type: none"> ・中間い・小問いについてまとめた地勢図を社会科班のワークシートに貼り付ける。 ・地勢図を使って中間い・小問いの答えを発表し合い、共有する。 ・3つ州をつらぬく学習問題の答えについて意見交換する。 ・3つ州をつらぬく学習問題の答えについて意見交換する。 ・隣のグループへの発表を4ターン行う。 ・3つ州をつらぬく学習問題の答えについてまとめ、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州に暮らす人々の生活をもとに、これらの州の地域的特色を大観し、その影響を受けて現れる地球的課題の相違点や、時間的・空間的な結び付きを理解している。【知識・技能】 →ワークシートと振り返りの内容

7 本時の学習指導

(1) 本時の目標

3つの州の地球的課題とそれぞれの結び付きに着目しながら、SDGs（持続可能な開発目標）と関連付けて、問いの設定を通して主体的に追究しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

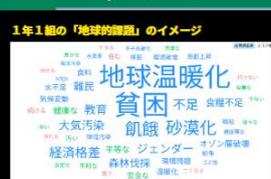
(2) 展開

過程	学習活動と学習内容	指導上の留意点	●評価【観点】→評価方法 支援の手立て
課題把握 5分	1 単元をつらぬく学習問題（大問い）を確認し、これまでの探究活動を振り返る。 2 三つの州の地球的課題を探究する単元に入ることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 大問いを設定した際のワークシートと、振り返りカードを活用する。 探究的な学習においては、課題設定が重要であることを意識させる。 	
【本時の学習課題】 どのような問いを立てると、各州の地球的課題の全体を見通し、意欲的に学べるだろうか。また、その問いの解決のために、どのような情報が必要だろうか。			
課題追究 35分	3 社会科班ごとにアフリカ州・南アメリカ州・北アメリカ州の分担を決定する。その後、地球的課題を追究する上での問い（中間い）を個人で立てる。 4 中間いを解決するために必要な情報を個人で三つ設定し、小問いとする。	<ul style="list-style-type: none"> 自身の興味関心と教科書の内容とのバランスを考慮した問いとなるよう促す。 三つの情報は探究の段階を想定した内容が望ましい。 	◇評価規準 ●三つの州の地球的課題とそれぞれの結び付きに着目しながら、SDGs（持続可能な開発目標）と関連付けて、問いの設定を通して主体的に追究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 （ワークシートの内容と振り返りの内容） ◎十分満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿 →設定した中間いと三つの小問いの構造が、探究の段階を想定しながら大問いの解決に向かうものとなっている。 〈（A）の生徒の発展的な課題〉 →中間いと小問いが、社会的事象の地理的な見方・考え方が働くものとなっているかを見直す。 △努力を要すると判断される状況（C）の生徒への支援の手立て →生成AIに相談し、提案された必要な情報を取捨選択し、「どのような」「なぜ」という語句を用いる問い文章をつく
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ICTを活用した主体的・対話的で深い学び（自律学習） 自由進度学習によって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 （1）個別最適な学び ①指導の個別化 問いの設定に当たっては、探究内容では教科書解説動画を、探究方法では生成AIをミニ教師として位置付け、活用を促す。 ②学習の個性化 学級で設定した単元をつらぬく学習問題「SDGsにつながっている、3つの州の共通の課題とはどのようなものだろうか。」（大問い）の解決のために、中間いと小問いを個人で設定する。 （2）協働的な学び 大問いを学級で共有することで、学び合いを効果的にする。授業終わりの振り返りの前に社会科班で集まり、設定した問いを共有し「大問いの解決に向かっていくものとなっているか」という視点で意見交換をする。 （3）社会的事象の地理的な見方・考え方 学級で設定した大問いを、地球的課題に着目し、地域間の結び付きの中で、グローバル化と関連付けながら探究していくために、生徒が個人で設定した中間いと小問いでは、探究することで自然と見方・考え方が働くような問いを各自で設定できるよう促す。 </div>			
課題解決 5分	3 学習課題のまとめと振り返りを「学習活動振り返りカード」に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りは、大問いの解決に位置づけて記入するよう促す。 	

8 使用するワークシート（ロイロノート・スクールで作成）

Aグループ

1年1組の「地球的課題」のイメージ



アフリカ州・南アメリカ州・北アメリカ州をつらぬく学習課題（大問い）

SDGsにつながっている、3つの州の共通の課題とはどのようなものだろうか。

アフリカ州が抱える課題とその取り組み
教科書086-087

ブラジルにみる開発と環境保全
教科書114-115

アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題
教科書102-103

課題把握

1/6

- ・ 担当する州の決定
- ・ 学習課題（中間い）の設定
- ・ 必要な情報（小問い）の設定

2/6

- ・ 必要な情報①の収集
- ・ 小問い①の解決
- ・ グループで情報共有

3/6

- ・ 必要な情報②の収集
- ・ 小問い②の解決
- ・ グループで情報共有

課題追究

4/6

- ・ 必要な情報③の収集
- ・ 小問い③の解決
- ・ グループで情報共有

5/6

- ・ 中間い・小問いについてのまとめを社会科班で共有
- ・ 大問いの答えについて意見交換

6/6

- ・ 大問いの答えについてグループごとのまとめ
- ・ 全員発表
- ・ まとめと振り返り

次のカードへ

▲ 11/16 時間目から 15/16 時間目まで使用

Aグループ

アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題

アフリカ州・南アメリカ州・北アメリカ州をつらぬく学習課題（大問い）

SDGsにつながっている、3つの州の共通の課題とはどのようなものだろうか。

大問いのまとめ

○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○

アフリカ州が抱える課題とその取り組み

ブラジルにみる開発と環境保全

▲ 15/16 時間目と 16/16 時間目で使用